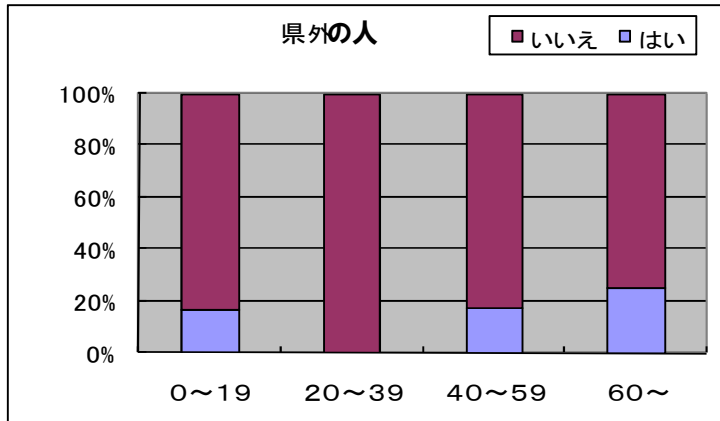


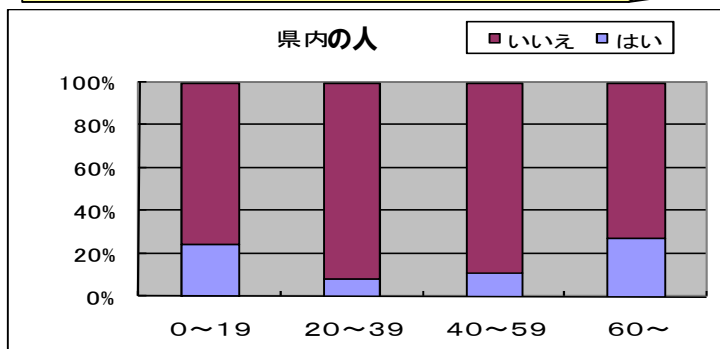


ぼくたちが、伝統工芸について学習を始めた時、新塩屋町の校区や新しくできる高松第一学園の校区に、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめの伝統工芸士さんがいらっしゃることを知りました。でも、ぼくたちは、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめのことはあまり知りませんでした。そこで、香川の伝統工芸品や奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめがどのくらい知られているのか、アンケート調査することから始めました。

さぬきのりぞめを知っていますか？



20~39才代の人には、全く知られていません。他の伝統工芸品に比べると、知っている人が少ないです。



県内でもあまり知られていません。特に、20~39才の人にPRしたいです。

県内でも県外でもあまり知られていないので、全国の人にPRして、香川の誇りをしてもらいたいです。



作り方



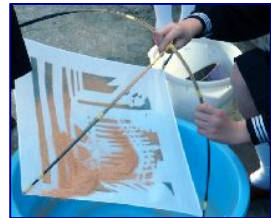
のりをつける

ハンカチにもち米で作ったのりを、置いていきます。



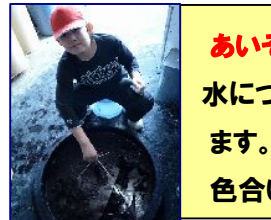
しんしをつけ、布を伸ばす

しんしで、しわにならないように、びんとはります。



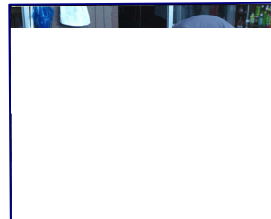
おがくずをつける

おがくずをつけて、外でほします。



あいぞめ

水につけた後、あいがめの中に20秒つけます。何回か2つのあいがめにつけ、深い色合いを出します。



あいやのりをおとす

余分なあいやのりを水やお湯で、洗い落とします。



できあがり

かわかしたら、できあがりです。今年で閉校する新塩屋町小学校の思い出の場所のハンカチ、ずっと大切にしたいと思います。

印象に残った言葉

「お客様に喜んでもらいたいという気持ちで作っています。仕事は、楽しい。」

「できあがり想像して、イメージといっしょになればいいなと思いながら作っている。」「お客様の気持ちになって作るとお客様に喜んでもらえる。」「高いものでも安いものでも、一つ一つ同じように真けんに作っている。」と、のりぞめに対する思いを話されました。お客様の笑顔が見られるのりぞめを作ることが大川原さんのお仕事の楽しみでもあり、生きがいなんだと思いました。



「見ただけでのりの調子分かる。のりは、かわいい。」

この言葉は、何年ものりぞめをされてきた大川原さんだからこそ言える言葉だと感じ、そんなふうに思えることはとても素晴らしいことだと思いました。のりぞめで一番むずかしいことが、気候・気温によってのりをかわかす時間やのりのかたさを調節することだそうです。大川原さんは、のりを愛している。そののりを使って、毎日、お客様の気持ちになって一つ一ついいにつくられるのりぞめは、大川原さんの心そのものだと思います。



「世界に広めていきたいです。」

未来につなげられるようなのりぞめをつくっていききたいという強い気持ちも感じました。のりぞめ体験を通して、大川原さんのほこりが分かりました。ぼくたちも、讃岐のり染めを知って、香川県だけではなく、全国、世界に広げたいと思いました。



奉公さんにこめられた 思いとは？



病気になったお姫様につかえていたおまきという女の子がお姫様の身代わりとなり、なくなってしまったという伝説がもとになり、奉公さんが作られました。



奉公さんには、何より、**周りの人の幸せを願う気持ち**がこもっています。

おまきの周りの人を思う気持ちややさしさがこめられています。

自分が作った奉公さんをよく見ると、見たことのある**だれかに似ていませんか？**作っているうちに、だんだんやさしい気持ちになってきます。そして、奉公さんのように、周りの人を思うやさしい気持ちになることができます。

奉公さんのように、笑顔で、やさしく、周りのことを考えられるようになりたいと思いませんか？

おまきのようなやさしい気持ちで周りの人に接しようという**香川の人たちの心**は香川のほこりです。

わたしたち、新塩屋町小学校の5年生も香川のほこり「奉公さん」を**全国に伝えたいです。**

奉公さんはいつできたの？ 使い方は？



高松張り子は、高松藩初代 松平頼重公が高松に来られた際、家臣が伝えて始まったと言われています。また、奉公さんが有名になったのは、明治になってからだそうです。



1つ目は、病気の子にだかせて海に流すと病気が治ると言われています。

2つ目は、およめ入りの時に近所の子にあげたり、ダンスの中に入れてたりすると幸せを運んでくれるそうです。

奉公さんには、**周りの幸せを思うやさしい心**がありますね。



発見！奉公さんのひみつ

笑顔

奉公さんの笑顔は人をなごませることができます。



赤い目のまわり

目が赤いのは、病気を表していて、そこをさわると、病気が治るといわれています。



松竹梅

着物の模様松竹梅で描かれて、松葉の色は金で梅の花は白で竹は緑です。おめでたという意味があります。



赤い着物

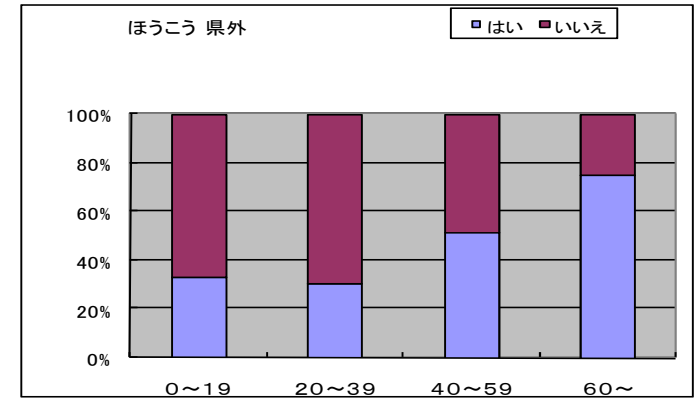
赤色は魔よけの効果があります。



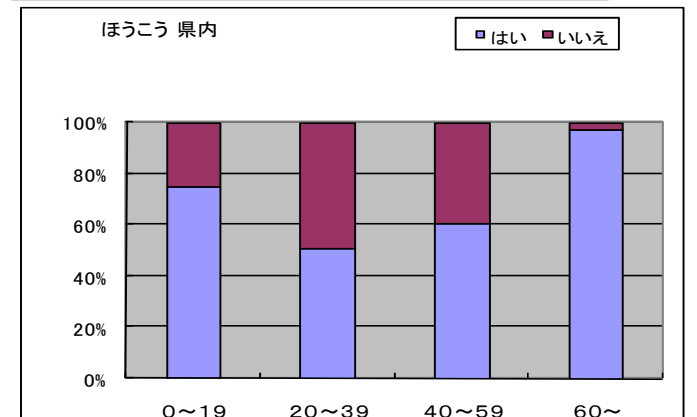
ぼくたちが、伝統工芸について学習を始めた時、新塩屋町の校区や新しくできる高松第一学園の校区に、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめの伝統工芸士さんがいらっしやることを知りました。でも、ぼくたちは、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめのことはあまり知りませんでした。そこで、香川の伝統工芸品や奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめがどのくらい知られているのか、アンケート調査することから始めました。



奉公さんを知っていますか？



奉公さんは、県外の方にはあまり知られていません。特に、60代以下の方にはあまり知られていません。



奉公さんは、県内の方にはよく知られています。特に60才以上の方に知られています。10代の方が知っているのは体験しているからだと思います。

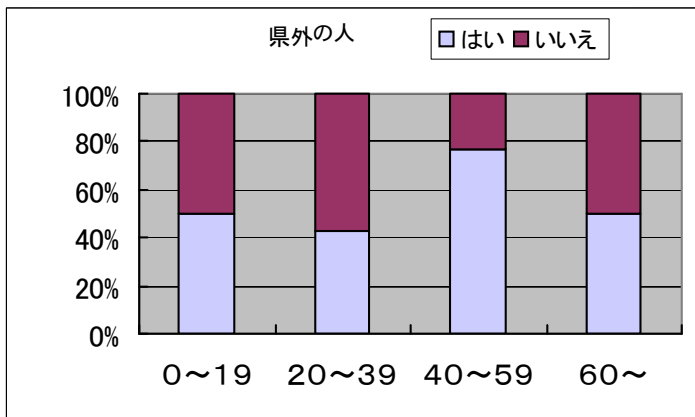
全国の人にPRして、若い人に知ってもらいたいです。





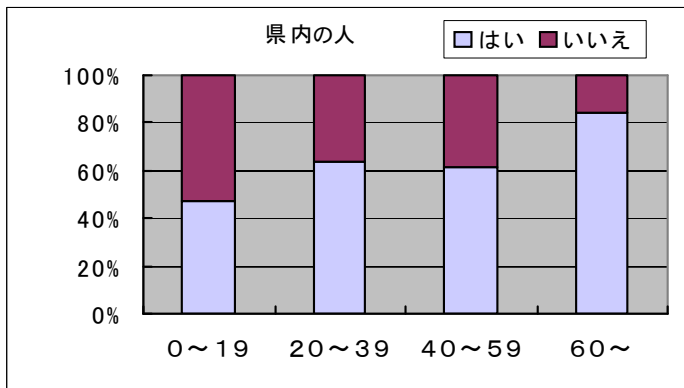
ぼくたちが、伝統工芸について学習を始めた時、新塩屋町の校区や新しくできる高松第一学園の校区に、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめの伝統工芸士さんがいらっしゃることを知りました。でも、ぼくたちは、奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめのことはあまり知りませんでした。そこで、香川の伝統工芸品や奉公さん・香川漆器・さぬきのりぞめがどのくらい知られているのか、アンケート調査することから始めました。

香川漆器を知っていますか？



考察 20~39才の人にあまり知られていない(T,T)
40~59才の人は半数の人が知っている(-,-)
県外の人にはあまり知られていない(T,T)

まとめ



考察 全体的に半数以上知られている(〇〇)
60才以上に80%をこえてよく知られている(〇〇)

まとめ 県内ではよく知られている(〇)

全国の人にPRしたいです。
特にわかい人を中心にPRし、香川のほこりを知ってもらいたいです。



香川漆器の技法

きんま

竹や木の素材の上に、黒いうるしを十数回ぬり重ねた表面に、ちみつな模様をケンと呼ばれる彫刻刀で線を彫り、そのくぼみごとに彫りと埋め込みが何度も繰り返され、最後に、表面を平らにといで完成させる独特の技法です。



彫漆

色うるしを十数回から時には、百回以上ぬり重ねて色うるしの層を作ります。例えば、赤うるしを30回、緑うるしを30回といったぐあいにぬり重ねます。そして、その表面を彫刻刀で彫り、美しい模様を作り出す技法です。

存清

黒うるしをぬり重ねた表面に筆を使って色うるしで模様を描きます。そして、その模様の輪かやく細かい部分を彫刻刀で線彫りし、くぼみに金粉などを入れて仕上げます。

後藤塗り

後藤ぬりのしずい文様は、使えば、使うほどにぬりの「しず」と「味」が美しさを増します。



きんまの作り方

香川漆器は、伝統的工芸品に指定されています。そぼくでしずい色調の「象谷塗」、朱色を基調とした「後藤塗」、唐物ふうの「きんま」「存清」「彫漆」といった技法があります。その中から、私たちが体験した「きんま」をしょうかいします。

私たちは、「ほり」という作業をしました。

「ほり」

きき手で鉛筆の持ち方で「けん」をにぎり、逆の手の親指で「けん」を動かします。「けん」は、左から右に刀を動かします。力かけんで太さが調節できます。

伝統工芸士さんのすごいところ！

彫っていてむずかしいところは、まず、まがりです。2つめは、はっきり線を彫ることです。木がかたくて、力かけんが分からないので深く彫りすぎてしまいます。3つ目は、直線を彫っていると、少しまがってしまうことです。

ぼくたちには、むずかしい線彫りを「ザクツザクツ」と簡単に彫っている伝統工芸士さんの技術はすごいと思いました。細いくっきりとした線で作るのには十年はかかるそうです。ぼくたちは、木に下書きをして彫りましたが、工芸士さんは、下書きもせずに細かい模様を彫ると聞いて、驚きました。

うるしぬりをする作業は、適度な湿度が必要なので、暑い夏でも冷房することができません。香川漆器の伝統は、地道な努力の積み重ねで守られてきたのだと思います。香川漆器の技術と伝統を守り続ける伝統工芸士さんは香川のほこりだと思います。

